念願の親子での参加

「ここで生まれ育ったからには、子どもを屋台に乗せたかった」と語る及川邦仁さんは、水沢生まれの水沢育ち。一昨年から不断町西町内会の一員として川口町組の屋台運行に参加している。

妻の理恵さんは江刺出身。屋台に登場した友人の子どもを見て「自分の娘が出ていたらどんなにうれしいだろう」と思ったものの、子どもたちに勧めたことはなかった。

一昨年の祭りで屋台に登場した同級生を見た長女の未愛さんは、その姿に憧れ登場を決めた。練習に出掛ける未愛さんを見ていた妃麻里ちゃんも「出たい」と打ちばやしに登場することになり、昨年、親子で火防祭に参加した。

普段できない体験が成長につながる

「太鼓の練習は楽しくてすぐ覚えたよ。色んなお友達と仲良くなれた」とはにかむ未愛さん。学年も違えば町外から参加する子もいて、練習から本番まで新鮮で楽しい経験だった。理恵さんは「プリントを自分でファイリングしたり、積極的に練習に行ったりする姿を初めて見た」とその変わりように驚いたそうだ。

打ちばやしで満面の笑みを見せていた妃麻里ちゃんは「ことしも出る」とすでに宣言。その気持ちは大きなはやし屋台に向かっている。

親子と地域をつなぐ

「練習の送迎や着物の準備、当日の付き添いなど、大変なこともあったけれど、終わってみれば良い思い出しか残らない。また参加させたいです」と理恵さんは笑顔を見せる。

理恵さんは自身の環境の変化も語る。「地域で一つのものをつくっていく中で、近隣の皆さんと話す機会が増えた」。祭りが地域とのつながりを育むきっかけになった。

邦仁さんは「この祭りを受け継いでいかなければという思いでいる。これからも運行に携わっていく」と意気込みを見せていた。

自分たちが誇れる祭りに

防火祈願の祭事や火消組の記念行事を発祥とし、水沢の商人町としての発展によって豪華絢爛さを増しながら今に至った日高火防祭。時代とともに変化してきたこの祭りが、担い手の不足という新たな局面を迎えた。

各町組と日高神社火防祭保存会、日高火防祭実行委員会では、子どもや保護者が参加しやすい練習日程の設定や稽古用DVDの活用など、参加しやすい環境作りを進めている。今回の取材で9町組は、市内全域からの参加を呼び掛け、「旧市街の祭り」を「奥州市の祭り」にしたいと語っていた。そこには〝伝統を守りたい〟というだけでなく「この祭りには奥州市を一つにする、子どもたちが地元への愛着・愛情を抱いてくれるだけの魅力と力がある」という思いがあった。

300有余年の日高火防祭の伝統と思いをつなぐのは私たち一人一人だ。奥州の春を彩る歴史絵巻に新たな一幕を描こう。次代を担う子どもたちの誇りとなるように――。

◆日高火防祭・総合窓口◆

・登場の申し込みに関すること
・祭りの運行スケジュール　など

年間を通じて日高火防祭に関するお問い合わせに応じ、情報提供などを行っています。

◉日高火防祭実行委員会事務局
本庁商業観光課観光物産係（内線 272・273）

◉日高神社火防祭保存会事務局
（一社）市観光物産協会内（☎㉒ 7800）

本庁商業観光課
観光物産係 佐藤 暢晃（のぶあき） 主事

未来へつなぐ

日高火防祭に初めて参加した姉妹とその父母に感想を聞いた――

【写真】相打ち…ぼんぼりを照らし一段と華麗さを増した夜のはやし屋台。水沢駅前で９台そろっての「揃い打ち」の後、メイプル 前で１台ずつ相対し、「相打ち」を披露して各町に 帰っていく。火防祭のクライマックスだ

及川さん一家＝水沢区＝

【左奥】理恵さん(32)　【右奥】邦仁（くにひと）さん(35)
【右中】三女・志保ちゃん(１)
【左手前】長女・未愛（みお）さん(９)　【右手前】次女・妃麻里（ひまり）ちゃん(６)

◎昨年の日高火防祭に川口町組で参加。未愛さんがはやし屋台に、妃麻里ちゃんが打ちばやしに初めて登場し、邦仁さんは屋台の押し手として運行に携わった。